

首都圏における最近5年間での心不全医療の実情

演題番号
(空白でお願いいたします)

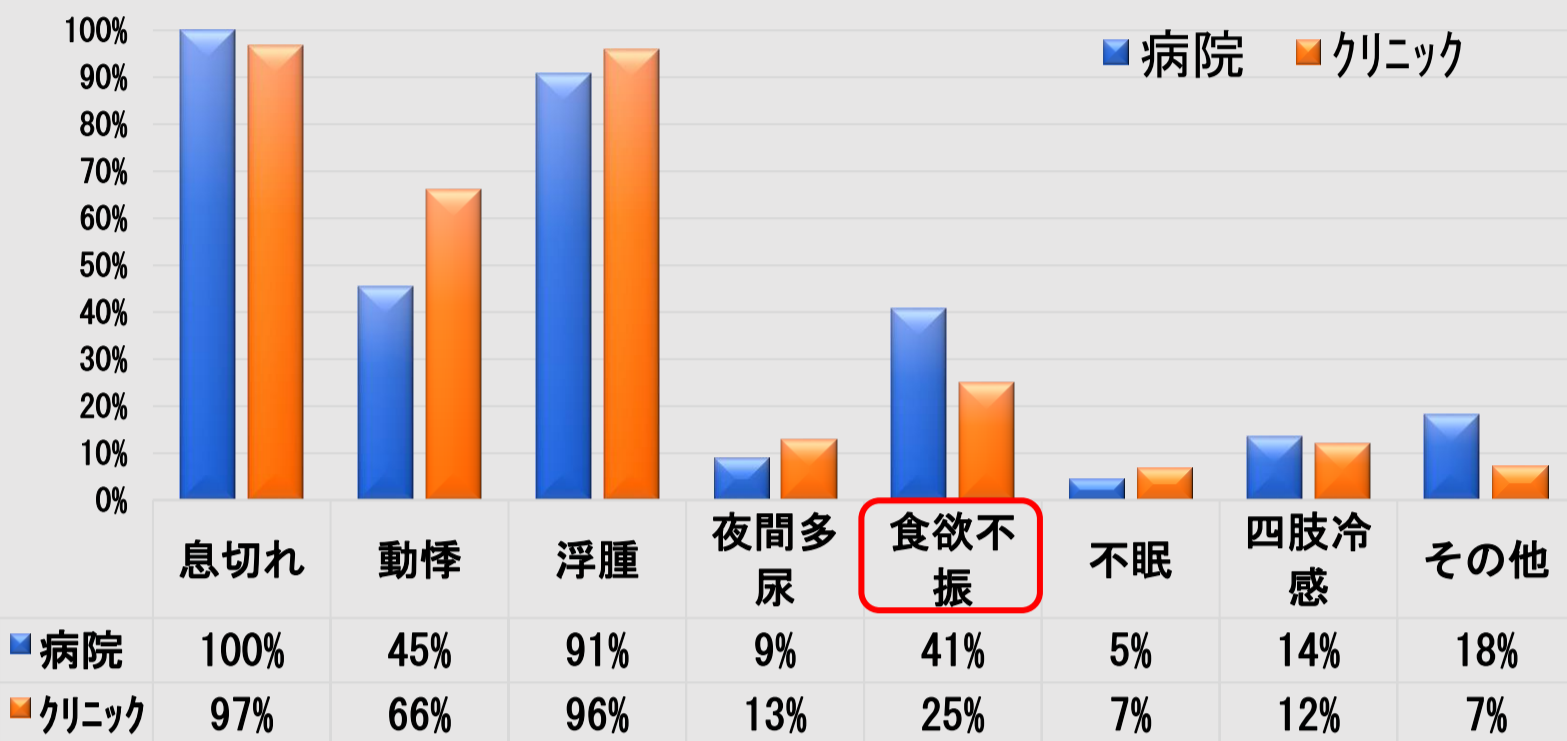
大宮医師会: 鈴木医院 鈴木英彦、
さいたま市民医療センター 百村伸一
飯島医院 飯島竜之、松本医院 松本雅彦
浦和医師会、さいたま市与野医師会、岩槻医師会、大宮医師会

背景

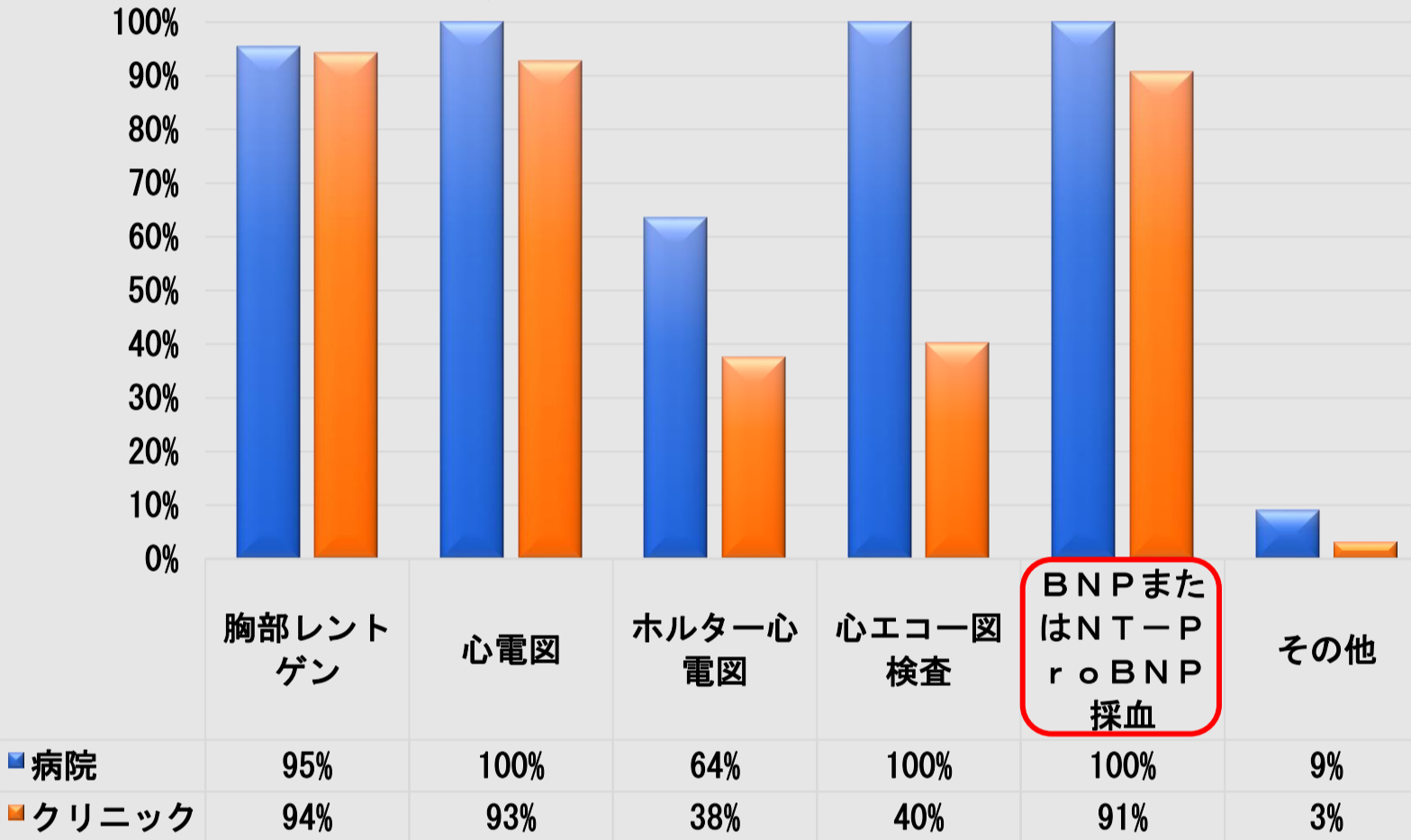
埼玉県の中核的存在であるさいたま市においても、高齢化は急速に進み心不全患者の増加は深刻となり、地域医療においてその対策を講じる必要がある。大宮医師会において地域における心不全の実臨床を把握するため、平成30年度に心不全診療に関わるアンケートを実施しさいたま市へ報告した。

今回はその5年後である、令和4年度にさいたま市4医師会(浦和、さいたま市与野、岩槻、大宮)に拡大し、新型コロナウイルス感染拡大禍における心不全医療の実態、新しい心不全治療薬の使用状況、在宅医療などの包括的医療の導入状況など地域実臨床における心不全医療の現状を把握するため、アンケートを実施し比較検討した。

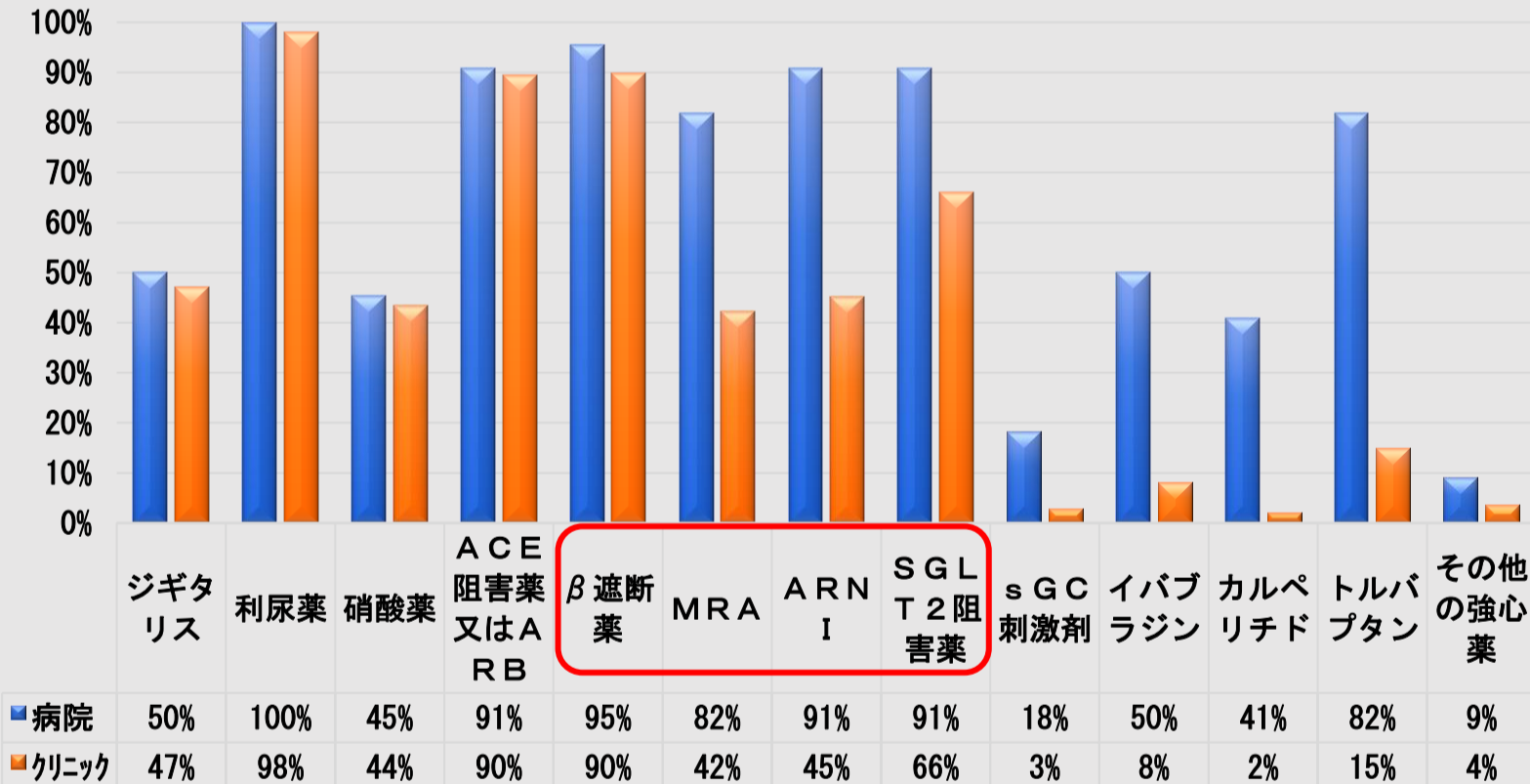
心不全の診断、治療で大切にしている症状を教えてください。(複数回答可能)



心不全に対し先生の施設ではどのような検査をしますか?(複数回答可能)



心不全治療に使用している薬をお選び下さい。(複数回答可能)



大宮医師会における心不全医療(5年前との比較)

心不全アンケートの質問内容	病院数(%)		循環器標榜クリニック数(%)		非循環器クリニック数(%)	
	2017年	2022年	2017年	2022年	2017年	2022年
慢性心不全で在宅医療管理中の患者を診察していますか?	12.5	55.5	41.2	42.1	23.6	31.8
今迄に慢性心不全の患者を何人看取りましたか?	100	88.9	24.5	36.8	34.5	12.5
自院や他院で心不全のリハビリテーションをしていますか?	—	62.5	—	47.4	—	7.0
慢性心不全の診察に心不全手帳を活用していますか?	—	77.7	—	42.1	—	11.4
心不全の病診連携の会や勉強会に参加したいと思いますか?	100	80.0	94.7	100	69.1	88.6

自由記載コメント(抜粋)

心不全患者の高齢化により、認知症の合併例が増加し、服薬コンプライアンスの低下など、心不全治療に苦慮することがある。

心不全患者を管理していると、腎・呼吸器・糖尿・脳神経等の合併症を把握する必要があり、領域をまたいだ病診連携実現には、診療機関同士の診療録共有が必要でありそのツールが必要。

実地医家においては「Fantastic Four」の内、MRA、ARNI、SGLT2阻害薬の使用率はまだ低く、ガイドラインに適合した使用方法などの勉強会を引き続き開催する必要がある。

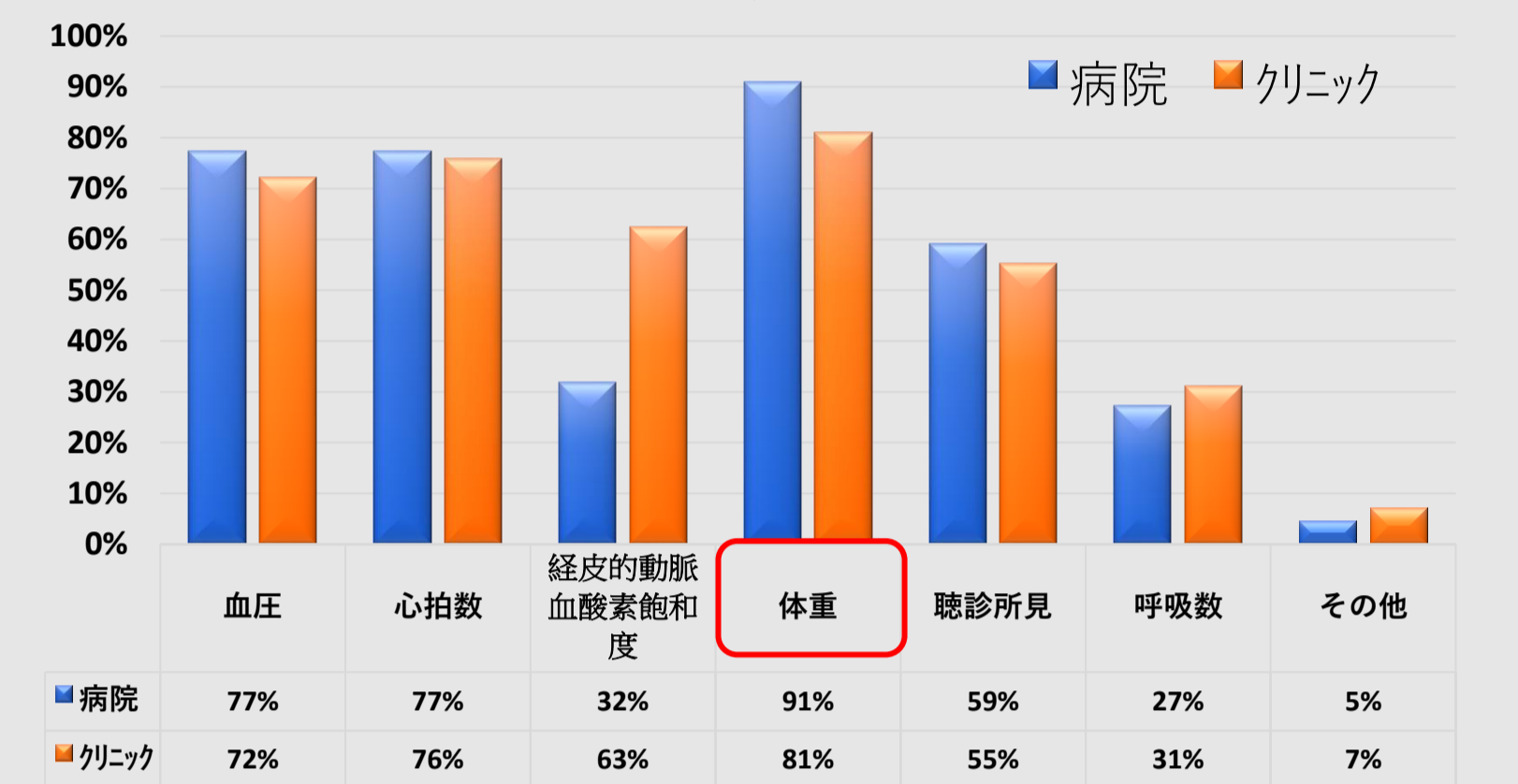
非循環器医であるため、定期的な心エコーのフォローアップを病診・診診連携として推進して欲しい。

治療方針の確認や入院依頼時に紹介できる循環器医の医療機関のマップがあったら良いと思う。

さいたま市4医師会 アンケート提出数(率)

	各医師会総数(率)			病院			クリニック		
	医療機関数	提出数	率(%)	医療機関数	提出数	率(%)	医療機関数	提出数	率(%)
浦和	314	206	66%	13	6	46%	301	200	66%
大宮	287	201	70%	16	10	63%	270	191	70%
与野	67	47	70%	2	2	100%	65	45	69%
岩槻	48	28	58%	6	5	83%	42	23	55%
全体	716	482	67%	37	23	62%	679	459	68%

心不全の診断、治療で大切にしている身体所見を教えてください。(複数回答可能)



さいたま市4医師会における心不全医療(5年前との比較)

心不全アンケートの質問内容	病院数(%)		循環器クリニック数(%)		非循環器クリニック数(%)	
	2017年	2022年	2017年	2022年	2017年	2022年
自院で慢性心不全の患者を診察していますか?	100	90.0	94.7	100	46.0	51.2
心不全で診察可能なACC/AHAステージ分類を選んで下さい。						
ステージA	0	11.1	16.7	0	18.5	23.0
ステージB	0	0	11.1	5.3	48.1	47.1
ステージC	50.0	44.4	72.2	73.7	31.5	25.3
ステージD	50.0	44.4	0	21.1	1.9	2.3
心不全診療にBNPやNT-ProBNPを活用していますか?	100	100	88.9	100	87.9	88.6

大宮医師会における心不全医療(5年前との比較)

使用している心不全薬を教えてください。(複数回答可能)	病院数(%)		循環器クリニック数(%)		非循環器クリニック数(%)	
	2017年	2022年	2017年	2022年	2017年	2022年
ジギタリス	37.5	33.3	33.3	52.6	46.6	36.4
ACEi・ARB	87.5	77.7	100	100	79.3	86.4
β遮断薬	87.5	88.8	88.9	100	75.9	87.5
MRA	75.0	66.6	72.2	78.9	46.6	38.6
トルバプタン	50.0	100	5.6	42.2	1.7	8.0
ARNI	—	88.8	—	63.2	—	44.3
SGLT2阻害薬	—	88.8	—	94.7	—	58.0
sGC刺激剤	—	11.1	—	21.1	—	1.1
イバプラジン	—	33.3	—	42.1	—	3.4

まとめ

さいたま市の医師会会員へ心不全診療のアンケートを施行し5年前と比較した。

ACEi、ARBとBBの使用頻度は増え、新薬による心不全治療も開始されていたがMRAの使用は減少しガイドラインに沿った医療啓発が必要であった。

循環器クリニックと病院ではステージC、Dを中心に治療しており、ARNIとSGLT2阻害薬を多用していた。

非循環器クリニックの心不全診療は増え、特にステージA、B、Cを中心に治療していた。

クリニックでは心不全の悪化予防のため、ステージA、Bからの治療を担うことが期待された。

クリニックにおける心不全の在宅医療と終末期診療は減少し、Covid-19感染拡大禍による影響、地域の在宅医療診療所の増加、新薬による治療改善効果などを考えた。

慢性心不全の看取りを含めた在宅医療に対応しているクリニックも散見されたが、末期の心不全患者はほとんどが病院にて看取られていた。